

# 文化祭特集



- ① 気分はサムライ??
- ② 茶道部の呈茶コーナーへようこそ
- ③ ダンス部野外ステージ
- ④ 「天空の城ラピュタ」のロボット兵を再現
- ⑤ 沖縄復帰40周年記念シンポジウム
- ⑥ 保護者も模擬店頑張りました

クラスがひとつにならないとできないような大がかりな創作物や舞台発表……。  
 できあがってみればそれまでのぶつかり合いやもつれが無駄ではなかったと思える瞬間があります。  
 その時、それまでよそよそしかったクラスの皆が他人でなくなり、信頼できる「仲間」になります。  
 ——こうしてできた、仲間との絆。卒業後も「そういえばあの時…」と語らう話題の一つはこの文化祭の思い出でしょう。  
 同朋の文化祭は連綿としてつながり、今にまで至っています。  
 「Chain～つながるキズナ～」をテーマとした今年の文化祭。  
 仲間との絆のチェーンについては確かにつながりました。

学校長 井戸 裕久

## 同朋オープンフォーラム2012 開催のご案内

### テーマ 未来を見つめて～成長する生徒・親・先生・学校～

12月8日(土)午後2時より5時終了の予定で、「未来を見つめて～成長する生徒・親・先生・学校～」をメインテーマに掲げ、生徒・保護者・教員・市民の四者による「同朋オープンフォーラム2012」を開催します。

現在、同朋高校では「キャリア・デザイン」「ライフ・プランニング」をキーワードに、進学・就職への道を切り拓くだけでなく、高校の3年間を通して、もう少し長いスパンでの生き方を生徒に考えさせるカリキュラムや学校行事のあり方を検討しています。また、昨年のフォーラムの全体会、進路を考える分科会でも「生き方」をどう見つけるかがテーマとなっていましたので、実行委員会で討議を重ね、今年はこれをメインテーマとしました。

全体会では昨年と同様に三重大学教授の佐藤廣和先生をお招きして、メインテーマに沿ったお話をいただ

きます。その後、3つの分科会①「自主自律の精神をどう育てるか」②「キャリアデザイン～どう描く自分の将来～」③「これぞ同朋の授業～未来のための学力を～」に分かれて討論を深める予定です。詳しくは実行委員会発行の案内をご覧ください。

四者がそれぞれの立場での様々な意見を交流し合い、その中で「同朋の教育」の未来について語れたら素晴らしいフォーラムとなるでしょう。

毎年好評をいただいている同朋高校の1年を紹介する写真展も、地域懇話会のみなさんにお手伝いいただき現在準備作業を行っています。

同朋オープンフォーラムは、どなたでも参加できる企画です。保護者のみなさんもお誘い合わせの上ぜひご参加ください。生徒のみなさんの参加も待っています。(教諭/瀧)



## 秋の助成金活動について



今年度も「オータムフェスティバル」を県下20会場で開催してまいりました。本校も5会場を中心となって運営し、皆様のご協力により無事終えることができました。特に11月17日は、自由選択講座や生徒による発表、模擬店、齋藤孝さんの記念講演と盛りだくさんの内容で、多くの方に来場いただき、活気にあふれた一日となりました。

さて、3年目を迎えた「公立高校授業料無償制・高等学校等就学支援金制度」ですが、2010年に愛知県は財政不足を理由に私学助成予算を30億円以上減額してしまいました。このことは、公私格差がこれまで以上に拡大することにつながっています。

なお、各地域での集会は終了しましたが、「日本ガイシホール(旧・レインボーホール)」において「11.23統一集会」を予定しています。この集会には副知事、各党代表に加え、私学振興議員連盟会長に登壇いただくこととなっています。12月の県議会で審議される「請願署名」、ひいては来年度以降の私学教育を左右する重要な集会となります。私たちの願いである「教育に公平を」の思いを伝えるために、さらなるご協力をお願いします。

最後になりましたが、運営協力券の普及、各集会への参加など、多くのお力添えをいただきましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

(教諭/田中)

## Schedule (行事予定)

12月		1月	
1 土	期末考査最終日(今回は土曜日までの実施です)	7 月	始業式
2 日	第3回学校説明会	11 金	卒業演奏会
4 火	6限・報恩講(1年生)	15 火	月曜時間割
8 土	自由選択講座 同朋オープンフォーラム	16 水	進路ガイダンス(1年生)
14 金	振替休日	19 土	センター試験
15 土	沖縄修学旅行(201/202/203)～18日	20 日	センター試験 情報処理検定
16 日	沖縄修学旅行(204/205/209)～19日	21 月	卒業試験～25日
17 月	沖縄修学旅行(206/207/208)～20日	25 金	英語検定
21 金	終業式	26 土	自由選択講座 保護者向け進路ガイダンス(1・2年生)
		27 日	簿記検定

お知らせ

音楽科  
卒業演奏会

2013年1月11日(金)  
会場：電気文化会館  
ザ・コンサートホール

開場：18時00分  
開演：18時30分

入場無料

# 文化祭特集

梅雨を越え、暑い夏を越え、生徒達は文化祭に取り組んだ。クラスの結集を感じさせる入場門をくぐると、校舎ほどの高さまでそびえるスカイツリーが迎えてくれた。野外ステージでは3年生の華やかなパフォーマンスに圧倒され、体育館では3年生の演劇に感動した。校舎内には2年生が練り上げた研究作品が並び、1年生の制作物に目を奪われた。生徒達が思いをぶつけ、議論し作り上げてきた文化祭。今年もその舞台裏を取材した。



## クラスが誇らしい 体育大会・文化祭2冠！〜パフォーマンス部門〜

308 富原 雅子  
(はとり中学校出身)



308は、夏休みに入る前には「吉本新喜劇」の準備をしていて、山本くんや山田くんが頑張っ  
て台本を作ってくれましたが、なかなか決まり切  
りませんでした。結局しつかりとしたテーマが決  
まったのは2学期に入ってからで、男子2組、女子  
2組による男女対抗ダンスバトルパフォーマンスと  
なりました。  
私のグループは少女時代「TAXI」の曲でダ  
ンスをする。ことが決まり、ダンスが苦手な私は大  
変苦労しました。難易度の高いダンスのため、授  
業後の居残りにはなるべく参加しました。本番の  
2週間前からは朝練習を、休日には稲葉地公園

でも練習しました。今までの文化祭より、今ま  
での行事よりも一番頑張ったと思います。私だ  
けでなく308のみんなは同朋アカデミー賞を  
めざして本当に頑張りました。  
リハサルでは杉浦さんが時間オーバーを指摘  
してくれ、鈴木くんのギャグを減らしてなんとか  
完成しました。そして、前評判の良かったクラスの  
リハサルをみんなで見に行きました。そのクラス  
は、背景とダンスの質に力を入れていてすごかつ  
たです。私はそれまで自分のクラスが一番だと思  
っていましたが、そのクラスのパフォーマンスを見て少  
し不安になりました。そんな気持ちで本番に向  
きました。

本番はトラブルもあつたのですが、うまくいき  
ました。パフォーマンスは体育館と屋外ステージの  
2回発表ができます。うまくいけばアカデミー賞  
をとって再演ができるので、全部で3回の発表が  
できます。  
文化祭公開日での公演を終え、教室でST  
しながら、校長先生による審査結果の発表をじつ  
と待ちました。その放送で自分たちがアカデミー  
賞を取れたことが分かること、みんなの喜びが放た  
れました。なかにはうれし泣きする子もいて、私  
もとても感動しました。  
体育大会の応援合戦優勝と、文化祭アカデ  
ミー賞という2冠は、とてもうれしく誇らしいも  
のとなりました。

2044は運動部の子が多くて残ってクラスの作  
業に参加することがなかなかできません。クラス  
はがらんとしていて「自分も残らなくていいや」と  
いう気持ちからか、部活以外の人も来なくなり、  
参加してくれる人はたった1人決まってきました。  
文化祭にはしなくていいと思っていて、「指揮官は  
僕である」と思うと苦しかったし焦りも感じまし  
た。



## 『オリンピック・パラリンピック』 最後はみんな一つに〜研究部門〜

204 八田 悠暉  
(浦須市立浦洲中学校出身)

僕は去年もクラスの中心として作業を進める  
役目でした。去年の文化祭は、1年生だから何も  
かも初めてでわからないことばかりでした。テーマ  
を決めるところから手こずって作業が全体的に  
遅れてしまい、完成したのは前日でした。結局賞  
を逃したけれどあまり悔しいと思いませんでした。  
急げ急げと作ったものだったので賞は取れないだ  
ろうと思っていたからでしょう。だけどやっぱり後  
悔しました。もともと早くテーマを決めて進めるこ  
とができたら結果は違っていたかもしれないと思  
ったからです。

この経験から、今度こそは早くテーマを決めて  
取り掛かろうと思っていました。しかし意見がぶつ  
かりなかなか進みません。研究は興味がない題材  
であればみんなのやる気は出ません。だからみんな  
ががんばれるテーマが必要でした。今年はずい  
うどオリンピック開催の年という事もあり、やっ  
とこのことで決めたテーマは『オリンピック・パラリン  
ピック』です。もう夏休みは目前でした。

すぐ班分けをして仕事を割り当てたのですが、  
やつてる班はほんの握り。9月に入ってもう本  
気を出さなきゃいけない頃になっても進みません。



「あたりまの反対はありがとう。常にあたりま  
えに感謝しなければいけない。」ということだ  
僕たちがあたりまにできてきていること。歩く、走  
る、ジャンプする。それらは感謝しなければいけ  
ないということを教わりました。五体満足に生まれ  
てきた僕たちは、体に常に感謝しなければいけ  
ないです。  
今年の文化祭は僕にとって、クラス活動や団結  
だけでなく、学ぶところの多い文化祭となりまし  
た。



## カラフル 〜プラプラからのメッセ〜演劇部門〜

309 安場 郁  
(植田中学校出身)



アカデミー賞を受賞できたのは、クラスみんなの  
おかげです。  
夏休みは人が集まらず、なかなか仕事をし  
てくれない人もいました。そんな状況の中、最高の  
物語を作ったのは、309のみんなです。役者、音  
響、照明、そして裏方として手伝ってくれる人み  
んながクラス演劇に関わってくれ、誰一人欠けるこ  
となく仕事できました。  
今までの文化祭の経験から、早くから作業に  
取り組まない間に合わなくなることが分かって  
いたので、演劇も早くから取り組みを始めた。  
夏休みには脚本ができ、役者は早くから脚本を  
覚えてくれました。このことから練習もスムーズ  
に進んでいくと思っていたのですが、実際はそん  
なに簡単には進みません。家の用事などでなかな  
か作業に残ってくれなかつたり、ずっとしゃべって  
たりする子が多く、「自分だけ2人頑張っているの  
だろう？」この思いから監督を辞めようと思った  
こと何度もありました。私は監督と役者を兼  
ねていました。通し稽古の時に、メインキャストが  
涙を流しながら演技をしたことがきっかけとなっ  
たようで、みんなのやる気が出て、遅くまで残って

私は初めての文化祭を  
終えて、同朋アカデミー賞  
を取れたことに、101の  
みんなや担任の先生に感  
謝したいと思います。  
夏休みに入る直前のク  
ラスは「スカイツリー」を作  
ることに決まりました。設  
計図を先生と一緒に考え、  
制作に必要な用品をみん  
なで買い出しに行き、夏休  
みに突入しました。夏休み  
から文化祭にかけてA P  
や部活動も頑張りがら、みんなで作るクラスの制作  
活動に励みました。



## 初めての文化祭を振り返って〜制作部門〜

101 松山 拓末  
(日比津中学校出身)



夏休みが終わるころには、クラスのメンバーの半  
数以上が集まり、春の「新歓フェス」の売り上げを  
利用したパーベキューをしました。しかし、パーベ  
キューは楽しかったのですが、その後の文化祭準備  
にはなかなかメンバーが集まらず私と委員長しか  
いなかった日もありました。そんな中、文化祭がは  
じまる2週間ほど前からは、部活動に行っていた  
メンバーも一緒に文化祭の準備にクラスに集うよ  
うになり、少しずつクラスの雰囲気も文化祭に向  
けて盛り上がりていきました。

夏休みには補強のための木材をのこぎりで切つ  
たり、白いペンキを塗ったりと、目立たない部分で  
の地道な作業が続ききました。支柱となるエレベ  
ーター部分には青いガムテープをひたすら張り付け  
る作業に汗を流しました。9月からは第1展望台  
や第2展望台の制作を行い、リアルさを出すため  
にゴムひもで窓の空間を作る工夫をしました。

作業に参加してくれる仲間が  
増えました。私のクラスは、あ  
えて大道具を少なくしたこと  
もあり、それを役者の演技で  
カバーしなければなりません  
でした。みんなの演技は予想  
以上にうまく、役に入り込む  
ことができる人がいたり、棒読  
みでしか読めなかつた子が上  
手になつていたり。演出に関  
してもいろいろとアイデアを  
くれ、よりよい作品に生まれ  
変わりました。こうしたことか  
らチームワークも強くなり、  
チームワークの大切さを実感  
しました。私は所属するダンス部の練習とクラス  
演劇とを両立させなければならなかったため、私  
がダンス部の練習をしている時にちゃんとクラスは  
準備を進めることができるだろうか心配してし  
たが、だんだんクラスの雰囲気も良くなり、みんな  
を信じてダンス部の練習にも参加できるように  
もなりました。何事も信じていることが大切であり、  
信じてもらうことも大切なのだと思います。

私は、担任の柏原先生にアカデミー賞をプレゼ  
ントできて良かったと思っています。柏原先生は、  
私たちのクラスをずっと見守っていてくれました。だ  
から最高のクラスになったのだと思っています。  
アカデミー賞受賞が分かった時のみんなの涙は、  
一生懸命頑張った証です。私は、309がよかった  
と思っています。309が大好きです。

そして、いよいよ本番直前。専門の業者さんに  
アドバイスを貰いながら、ついにスカイツリーを立  
ち上げました。立ちあがった時には、窓からのぞい  
ていた他のクラスの人たちも「スゲー！」と声をあ  
げていました。それを聞いていたクラスのみんなも  
誇らしげに見えました。私自身もスカイツリーが  
立ち上がった時には、これまで体験したことな  
いような達成感を感じました。同朋史上最大  
となる12m超えのスカイツリーを101のメンバー  
で作ったことは、とてもいい思い出です。  
また、私はクラスの他にも書道部の一員  
として、初めての文化祭に関わりました。忙しい  
毎日でなかなかうまく書けないこともありましたが、  
顧問の先生の指導を受けながら満足いく  
出展作品を書くことができました。  
今回の文化祭を通じて、クラスが以前にもまし  
てよりつよくなることができました。また他のクラ  
スにも多くの友達ができることができ、思い出深い  
文化祭となりました。



「研究」に対する挑戦

201 穂積 秀哉  
(江南市立古知野中学校出身)

私のクラスの文化祭研究テーマは「まんが」に決まりました。昨年に引き続き、クラスをまとめる立場にあった私は、個人的な目標とするものが2つありました。それは、「制作」ではなく「研究」に取り組みたい。そして、クラスメイト一人ひとりの長所を活かした役割を全員に担ってもらおうことです。

2年生は「研究」に取り組むのですが、最近の研究は教室の飾りつけにこだわっている。「研究」からずれて「制作」となっているのではないかと疑問に思いました。そこで、準備の第1歩として、辞書で「研究」という言葉を調べるところから始めました。辞書には「個人が持っている知識を共有し、新しい物を発見すること」と定義されています。辞書を引いてよかったですと思いました。私たちはそれを知らず、危うく「調べ作業」をするところでした。



作業は、私たちが持っている「まんが」をB紙にまとめることから始めました。その中で、「まんが」の多様性を発見し、世界との違いに着目してまた新しい発見がありました。クラスの知識を集めるだけでも、新しいものを発見することが出来ます。これが「研究」なのだ実感しました。

もう1つの目標である「全員に役割を」という点は、比較的すぐに達成することができました。日常生活を見ると、友達の間には手に取るように分かります。苦手な作業はやる気がなくなるのであれば、その逆の作業をした時の結果は明らかです。また、準備を進めるうえで、どうしても作業の中心となるグループとそうでないグループに分かれてしまいます。これは、知識を共有しているグループとそうでないグループとことではないでしょうか。そこで、ホームページを利用して、それぞれが研究した内容を共有しました。意見を文字にあらわしてもらい、交流することによって、さらに考えを深めることができました。

今年の文化祭は、台風の影響もあり、表彰式の発表が後日先送りとなってしまいました。教室でベストクラス賞は201でました。放送で発表された時には、飛び跳ねるくらいうれしかったです。

文化祭を終え、改めて考えると、私は自分勝手なことをしてしまっただけです。自分で勝手にクラスの目標を決めてしまい、クラスメイトには迷惑をかけたと思います。そして、恥ずかしくて今まで言えませんでした。「がんばれ」という一言の言葉をかけてもらったことは、私の力になりました。ありがとうございました。

文化祭を振り返って

105 杉山 溪太郎  
(供米田中学校出身)



ベストクラス賞を受賞したとき、今までの苦労が報われ、みんなの努力が一つの形として讃えられたように思いました。

私のクラスは、夏休みからトリックアートとどんなものを製作していくかを計画し始めました。まずは、模型や簡単な設計図作りです。最初の工程から問題だらけで、最後までスムーズに作業が進むことはなく、とても辛い時もありました。エイムズの部屋の骨組みは木材を使って作ることが決まり、建材マートへ資材を探しに行くこと、お店の方が声をかけてくれました。アドバイスをいただけると、かなり、とても心強く感じましたが、実際の作業はそんなに甘いものではありませんでした。夏休みはなかなか人が集まらず、作業が進みません。そんな少数人数の中でも着実に計画や資料の調達を進めました。

2学期に入ると実際に組み立て作業が始まり、バラバラと人数も増えて

友達と話し合い、先生や建材マートの方に相談しながら、何とか形ができてきました。特にベニヤ板で床を貼っている時は、「エイムズの部屋らしくなってきたな」と、ちょっとした達成感を感じました。

ラスト3日あたりになつたころ、とても嬉しい出来事がありました。それはクラスのたかさんの人が残ってくれて、みんなが役割を持って作業をしてくれたことです。やっとクラス全員で一つのものを作っているのだと実感できました。

文化祭中、私たちの製作物を見てくださった来場者から「すごいーなんですか？」など驚き、楽しんでくれた時、このエイムズの部屋は成功したと喜びました。と同時にホッとしました。初めての高校文化祭でベストクラス賞を受賞できたことは本当に嬉しかったです。このクラスの一番の収穫は全員で一つの方向に向かって協力し合えたことだと思います。

●文化祭 受賞クラス一覧

アカデミー賞

- 1年生 制作部門 101 スカイツリー 1/50size
- 2年生 研究部門 204 オリンピック&パラリンピック
- 3年生 演劇部門 309 カラフル
- 3年生 パフォーマンス部門 308 Crazy People ~今世紀最大のダンスバトル~

ベストクラス賞

- 1年生 105 トリックアート~エイムズの部屋~
- 2年生 201 まんが

# オーストラリアの生徒たちが、同朋高校に来校! 同朋高校の生徒として過ごしました



10月3日(水)午前11時過ぎ、21名のオーストラリアの生徒と教員(男子6名女子12名、教員3名)が、同朋高校を訪れました。ここ数年、オーストラリアの語学研修でお世話になっている、ユニティ・カレッジの皆さんの2回目の訪日です。

2週間にわたるジャパントリップのなかで、東京や広島、京都、金沢、高山と欲張りにあちこちを回りましたが、日本を発つ前、最後のそして最大のイベントとしてユニティ・カレッジの生徒たちが楽しみにしていたのが、同朋高校訪問&ホームステイでした。

同朋高校に到着後、食堂で昼食をとり、キャンパスツアーとして校舎内をめぐる。ユニティ・カレッジの校舎はすべて一階建ての平屋なので(土地が広い)、5階建ての校舎に教室が詰まっている様子に驚いていました。

その後、昼休みを利用して多目的室でささやかな歓迎式が行われました。同朋高校からは校長先生が英語で、引率教員代表のコートニー先生が日本語で挨拶をした後、同朋高校の生徒を代表して葛谷有希さん(清須市立新川中学校出身)が、ユニティの生徒を代表してマイケルくんが、それぞれ英語と日本語で挨拶をしました。挨拶が終わった後、2人ともほっとした顔をしていました。ここでユニティの生徒とホストファミリーの生徒が引き合わされ、

会場は一気に和やかな雰囲気に代わりました。ほとんどの生徒が事前にメールなどのやりとりをして、お互いに写真は見ているのですが、実際に会うのは当然初めてです。汗をかきながら一生懸命話をしようとする生徒の姿が印象的でした。

5時間目は4~5名のグループに分かれてベン先生と丸山先生のオール・コミュニケーションの授業、ニック先生と犀川先生のライティングの授業に参加しました。同朋の生徒たちもオーストラリアからのゲスト訪問に戸惑いながらも、楽しそうにコミュニケーションをとりようとしていました。

6時間目が終わったら、いよいよユニティの生徒たちはSTでホームルームデビューです。同朋高校に来る前から練習してきた日本語での自己紹介、ユニティの生徒たちは「ドキドキする」と言っていたのですが、上手くできたでしょうか。

授業後には柔道場・剣道場へクラブ見学に向かいました。目の前で投げたり投げられたりする柔道部の練習の迫力に目を丸くしていました。そして夕方5時頃からホストファミリーが順次来校され、ホームステイが始まりました。

2日目の木曜日は、朝出欠を確認した後、ホストファミリーの生徒たちの教室へ向かい、朝のSTからそのまま1時間目の授業まで教室で過ごしました。当然授業は日本語で行われるのですが、ユニティの生徒たちは大変興味深く授業を受けていたようです。

この日は5~6時間目に3年生普通科の卒業研究ゼミナールにも参加しました。ダンスや調理実習、陶芸、美術、英語のスピーチなど希望の講座に入り、それぞれ楽しんでいました。同朋高校から夏休みに出かけるオーストラリア・ホームステイでも、ユニティの授業に入り交流をすることをとても楽しむのですが、それはユニティの生徒たちにとっても同じようです。

土曜日、名古屋での行程を、そして日本での行程をすべて終え、関西空港へ向かうユニティの生徒たちとは新幹線の改札口でお別れとなりました。別れを惜しむ生徒や家族のみなさん、ユニティの生徒の様子から、各家庭でとても良い時間、良い交流が持ったということがうかがい知れました。多くの家族は新幹線ホームまで見送りにみえて、新幹線車内のユニティの生徒たちと手を振り合っていました。

前回は日程の都合で2泊3日、しかも2日目は祝日で学校には来ないというスケジュールだったので、ホームステイ受け入れ家庭の生徒以外はあまりかわる機会が多くありませんでした。今回は3泊4日であるということ、前回の間に間に祝日が入っていないことから、ホストファミリー以外の生徒との関わりをいかに多くするかということを考えてスケジュールを設定しました。

同朋高校に滞在している間は、ホストファミリー生徒のクラスで毎回STに参加しましたし、昼食も教室や食堂で同朋の生徒と同じようにお弁当を食べました。同朋の生徒と一緒に授業もいくつか受けました。校内でもつたない英語で一生懸命ユニティの生徒に話しかける同朋高校の生徒の姿が見受けられ、ホストファミリーの生徒だけでなく、その他の同朋高校の生徒、またユニティの生徒たちにとって、有意義な訪問になったと思います。

帰国直前に取った調査では、ユニティの多くの生徒が「同朋での時間が短すぎた」「もっと多くの授業に参加したかった」と答えていました。授業の内容が分かる・分からないに関わらず、「日本の高校生を体験すること」をとても楽しんでいました。今回の訪問で、同朋高校の生徒の中にも英語や国際情勢、異文化に対する興味関心が少しでも高まっていたら、いろいろと準備してきたことが報われます。

今回のゲスト受け入れに、快くホストファミリーを引き受けてくださったご家庭の皆様には、心からお礼申し上げます。ユニティの生徒たちも、日本の家族の温かいもてなしに、とても感動していました。ありがとうございました。(教諭/滝)



今年の文化祭では、アンケートにおける3年生の「大変良かった」「よかった」の指標が過去最高の84.2%となりました。「文化祭を楽しんだ」ということだけではなく、「自分たちのクラスはそしてクラスメイトは最高だ」と言える文化祭だったということ、「自分たちが文化祭で成長した」ということを確認し合える文化祭になったと思います。

文化祭は生徒同士の絆が最も深まり成長する行事。だから同朋高校最大の行事なのです。(教諭/岡田)

## 2012年度文化祭を振り返って

文化祭は同朋高校最大の行事です。今年の文化祭準備は体育大会の熱気が冷めやらぬ6月初めから行われました。

文化祭実行委員会では本部企画、野外ステージ、体育館ステージやオープニングエンディング企画、模擬店企画に分かれて準備が行われます。各クラスでは、1年生は製作部門、2年生は研究部門、3年生は演劇パフォーマンス部門と学年ごとに分けられ取り組みが始まります。

準備の中で、生徒たちは様々な体験をしました。準備に人が集まらずに悩むこと、どのように進めたらよいか、何を行ったらよいか分からず苦しむこと、他の仲間と悩みを相談しお互いに共感すること、そして輪が広がりみんなで完成に向けて進むこと。

そして迎えた文化祭当日。1年生は初めての文化祭を完成まで取り組みました。2年生は研究という難しい部門ながら、自分たちでテーマを深め発表しました。3年生は最後の文化祭でクラス一丸となり全力で表現しました。本部企画は沖繩の高校生映画監督を招待し(当日、台風のため飛行機が飛ばず、インターネット電話を利用し)、現在・未来の沖繩について話し合いを行いました。

## 文化祭PTA父母バザー今年も盛況!

9月29日(土)文化祭一般公開日にPTA四委員会による恒例のバザーが開催されました。好天にも恵まれ、各委員会のバザーも盛況で予想以上の収益をあげる事が出来ました。

各委員会の当日の様子は次の通りでした。「事業委員会」では名物の焼きそばを販売し、今年も限定商品の塩味が大人気でした。食物実習室での調理を中心に販売の流れを作りましたが、開店当初は実習室での作業効率が悪く、軌道に乗るまでに少し手間取りました。その後は順調に販売され、用意された600食は昼過ぎには完売しました。「地域懇談委員会」は、例年みたらしを販売してきましたが、苦勞の割に収益があがらなかったため、委員会で検討し、試行錯誤の末に販売品目をフランクフルトに変え、収益アップを図りました。目標の売り上げにはとどかなかったものの、例年の2倍以上の収益があり、その数字に委員の皆さんも満足そうでした。「生活委員会」では例年物品バザーに取り組んでいますが、今年は文化祭直前まで品数が少なく物品集めに苦勞しましたが、最終盤になって、生活指導委員さんや、他の委員会さんにも物品の提供を呼びかけたところ、一気に物品が集まり、また、卒業生父母の協力もあり、無事当日の開店を迎えることができ、収益も昨年を上回る事ができました。「文化委員会」は、昨年は場所が変わり、利用者に場所が分かりにくく、売り上げが若干減少したのではないかと反省し、今年は校舎のいたるところに案内を掲示して、集客に努めました。生徒に人気のタピオカ販売の効果も手伝って今年は売り上げを挽回しました。



PTAのバザーの他にも、生徒によるクラブバザー、卒業生父母のバザー、同窓会バザー、太鼓サークルによるバザーが開催され、こちらも盛況でした。(教諭/瀧)



## Club & Award News

### 柔道部

- 第67回国民体育大会(ぎふ清流国体) ベスト8 中村 友美 (309) 安城市立安城北中学校出身
- 第35回尾張・名古屋・知多新人柔道体重別大会
 

男子60kg級	永谷 勇氣 (109) 東港中学校出身	第3位
女子48kg級	橋口 史佳 (109) 東海市立平洲中学校出身	第2位
女子52kg級	松本 悠里 (106) 知多市立旭南中学校出身	第3位
女子57kg級	平野 未紗 (206) 知多市立東部中学校出身	優勝
女子57kg級	藤山 紗希 (204) 大府市立大府南中学校出身	第3位
女子63kg級	菅 真琴 (102) 平針中学校出身	第3位
女子70kg級	森 彩華 (206) 知多市立東部中学校出身	優勝
女子78kg級	上山 慧真 (109) 桑名市立成徳中学校出身	優勝

### 乗馬部

- 第37回前田記念馬術競技会
 

LL障害40	岩田 芽依 (102) 山田中学校出身	第2位
LL障害40	二川 七海 (102) 御田中学校出身	第2位
LL障害40	岩田 芽依 (102) 山田中学校出身	第3位

### 女子バスケットボール部

- 平成24年度名古屋南支部高等学校バスケットボール選手権大会 6位

### 写真部

- 第59回愛知県県立美術展 写真の部 梅元 貴弘 (308) 御田中学校出身 中日賞

### 囲碁将棋部

- 第27回愛知県県立学祭囲碁将棋大会
 

決勝トーナメント	吉田 将也 (305) 日比津中学校出身	ベスト8
決勝トーナメント進出	林 聖悟 (303) 稲沢市立大里中学校出身	

### フィギュアスケート

- サマーカップ2012フィギュアスケート競技会
 

	河原 もも (104) 高杉中学校出身	総合7位
--	---------------------	------
- 2012中部フィギュアスケート選手権大会
 

	河原 もも (104) 高杉中学校出身	総合5位
--	---------------------	------